



岡山大学記者クラブ加盟各社 御中

令和4年3月17日  
岡山大学

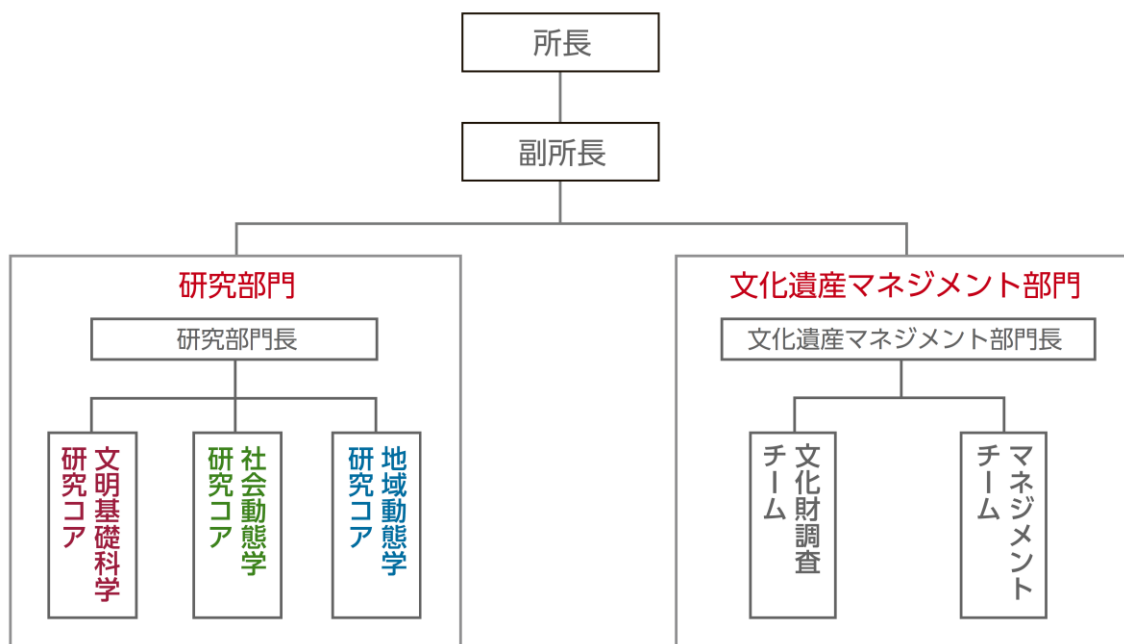
## 文明動態学研究所に文化遺産マネジメント部門を設置

人文社会科学を核とし、本学および国内外諸機関の地質学、生物学、化学、物理学、神経科学、情報科学等の研究者との緊密な連携によって人類文明の来し方・行く末を探求する文理横断型研究拠点として2021年4月1日に設置された岡山大学文明動態学研究所が、2022年度から新体制となります。これまで大学構内の遺跡の発掘調査・研究および出土した埋蔵文化財の整理・保管に携わってきた岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが研究所に加わり、文化遺産マネジメント部門として、岡山地域の歴史を明らかにするうえで重要な文理融合的調査研究を推進するとともに、研究成果の地域への還元や地域社会との連携を促進します。これにより、埋蔵文化財調査研究センターは廃止されますが、これまでセンターが行ってきた全学的な発掘調査・研究業務を研究所が引き継ぎ、文理融合的・国際的研究の重要な資源と位置づけて文明動態学研究推進の基盤を強化します。

なお、文明動態学研究所では分野横断的研究を促進し、研究成果を広く公表するため、オンライン・ジャーナル『文明動態学』を刊行しました。

### 1. 2022年度からの研究所新体制

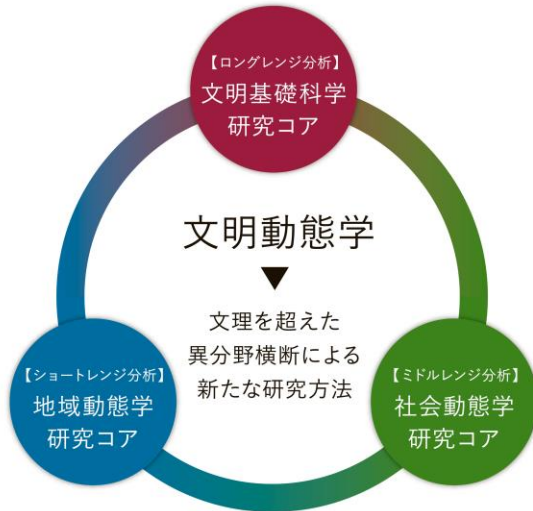
組織図





## PRESS RELEASE

### 研究部門 3 つのコア



#### 【ロングレンジ分析】

文明基礎科学研究コア  
人類の誕生と文明の形成

国境を越えた人類史学としての考古学  
人類と環境  
地域形成の歴史的理解

#### 【ミドルレンジ分析】

社会動態学研究コア  
社会の複雑化と地域社会の形成

生存のシステムとしての家族・地域・国家  
災害と地域社会のレジリエンス  
社会変容とジェンダー

#### 【ショートレンジ分析】

地域動態学研究コア  
日本社会の縮図としての瀬戸内

地域社会の持続性と市場、制度  
生活文化の連続・非連続  
アートが拓く地域の未来

種々の研究プロジェクトを通じ、学内外の研究者等が有機的に関わり、国際的なネットワークを形成することで、人文科学、社会科学を中心とした文理横断型研究拠点を確立。

岡山大学学術研究院社会文化科学学域と密接に連携し、新たな知の創造と社会の還元にとりくむ人材や地域社会と国際社会で活躍できる人材を育成。

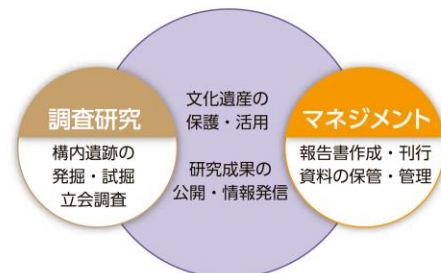
### 文化遺産マネジメント部門

■概要 要／岡山大学埋蔵文化財調査研究センターを前身とする本部門では、岡山大学の文化遺産の調査・保護・研究・活用を行い、なかでも本学敷地内埋蔵文化財について発掘調査・研究および出土資料等の管理を行います。調査・研究のみならず、その成果をひろく社会に情報発信し、活用していきます。

■沿革 革／岡山大学内における埋蔵文化財調査は、岡山市教育委員会が1978年に鹿田地区で行った立会調査が始まります。県や市による立会・試掘調査は1982年まで続けられました。本学における遺跡保護体制の整備は同年から本格化し、本学の円滑な施設整備の推進とともに本学の埋蔵文化財の保護を図るため、翌1983年に岡山大学埋蔵文化財調査室が設置され、1987年11月には埋蔵文化財調査研究センターに改組されました。同センターは業務として学内の埋蔵文化財調査研究にあたり、その成果を発掘調査報告書として刊行し、出土資料の管理を実施してきました。また定期的にキャンパス発掘成果展や特別展として、調査成果の展示公開を行ってきました。この度、文明動態学研究所との統合にあたり、これまで同様に埋蔵文化財に関する業務を継続するとともに、研究所の理念にのっとり、研究の一層の深化をめざします。

■組織構成 本部門は、文明動態学研究所教授会の具体的審議に沿って運営します。また、構内遺跡調査は全学的業務と位置付けられており、埋蔵文化財調査委員会の指導の下、調査・研究にあたります。本部門では、部門長（教授）、チームリーダー（准教授）、および4名の助教と技術補佐員5名が業務にあたっています。調査研究チーム、マネジメントチームの2つのチームは主たる担当を分けていますが、連携して本学の文化遺産の保護・活用を図り、研究成果のさまざまな発信、公開に取り組めます。

### 文化遺産マネジメント部門の 2つのチーム





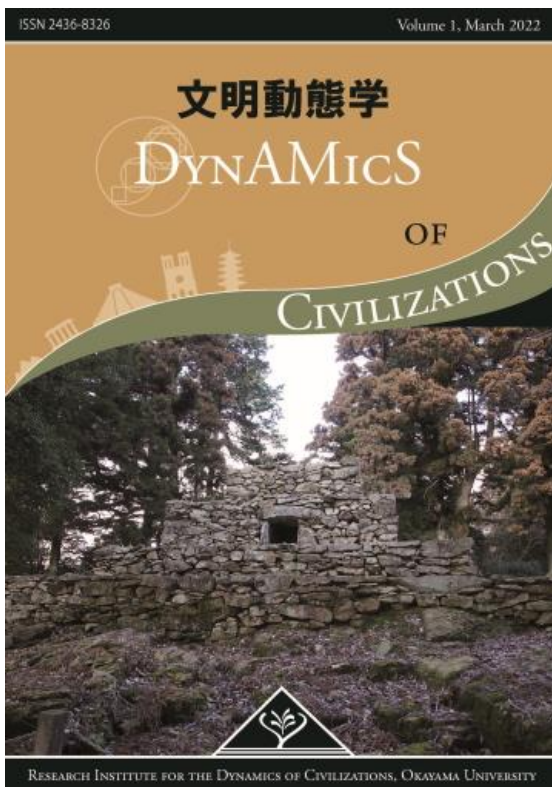
## PRESS RELEASE

### 2. オンライン・ジャーナル『文明動態学』について

文明動態学に関する論文、研究ノート、書評などを掲載します。さまざまな要因が複雑に絡み合っ  
て展開する文明動態を、時代、地域、分野を結ぶ新たな研究視点で明らかにすることによって、  
私たちはどこを目指して進めばよいのかを考えるのが、この研究所の究極的な目的です。その目的  
を達成するため、多くの分野の研究者に参加いただき、活発な議論の場となるよう、誰でも投稿で  
きるオープン・アクセスの電子ジャーナルとしました。文明動態学の明確な定義はありませんが、  
上記の問題意識に根差した人類の歴史、文化、社会に関わる研究を集めることで、その枠組みが醸  
成されていくことを期待します。研究分野によって異なる論文の作法というハードルをできるだけ  
下げて、多様な研究分野が参加できるように、投稿規定はシンプルに、投稿言語は日本語でも英語で  
も可としました。研究成果を広く公開する場として、また分野を超えた学術交流、新しい知が生ま  
れる場として発展させていきたいと思えます。

『文明動態学』は、岡山大学図書館のリポジトリで公開しています。

<https://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/journal/jdc>



#### <お問い合わせ>

岡山大学文明動態学研究所 教授

松本 直子

(電話・FAX番号) 086-251-7519

